

研究授業 「保育職基礎演習Ⅰ」 の実施報告

井 上 範 子*

Report on a Demonstration Class “Early Child Care Education -- Basic Seminar I”

Noriko Inoue

要約

本稿は、平成26年度第1回保育学科研究授業「保育職基礎演習Ⅰ」の実施報告である。

保育職基礎演習は本学が独自に設定した科目で、保育学科全教員が担当する。この基礎演習Ⅰは教員の専門領域を中心にオムニバス形式で実施しているものである。本授業は、学科の全教員が立会の下で実施されるため、全員の協力を仰ぎながら授業を展開するという形式をとった。

本時は、「児童文学・絵本の世界を体験する」と題して、受講生全員が1冊の絵本を持ち寄り、少人数グループ単位で絵本の紹介・読み聞かせを体験するというもので、そのことを通して絵本について主体的な学びを触発しようと試みたものである。

キーワード：授業公開、研究授業、絵本、読み聞かせ

(Abstract)

This paper reports on the first demonstration class for the Early Child Care Education -- Basic Seminar I class, held at the Department of Early Childhood Education in 2014. This Basic Seminar is our original subject, and each class is taught by one of the department members according to their fields of specialization. One notable feature of this class is that it was observed by all our staff and carried out with their cooperation.

In this class, titled “Observing the Literature for Children and the World of Picture Books,” each student brought in one picture book and introduced it in a small group, and read the picture book to the other group members. This experience was expected

* 提出年月日2014年11月28日、高松短期大学保育学科教授

to trigger recognition of the importance of subjective learning about picture books in each student.

Key words : demonstration class, observed lesson, picture books, reading picture books

はじめに

保育者にとって絵本は日常的に取り扱われるものであるから、一通りの見識と技能をもっておかなければならない。保育者を目指して入学し、まだ2カ月だが主体的に学びやすいもののきっかけをもたせたいと思い計画した。しかもこの授業は、学科の教員全員で取りかかれるのでグループ活動として全員が体験できる。これを機会に自ら多くの絵本にふれ、習熟してみようという意欲を育てたいと考えている。

1、研究授業の日程

(1) 研究授業

日 時：平成26年6月6日（金）5校時（16:20～17:50）

場 所：本学2号館 2101 講義室、2102 図工室1、2104 図工室2

科 目：保育職基礎演習Ⅰ

担 当：保育学科教員全員 本時は、井上 範子が担当

講義形式：演習

対象学年：保育学科1年（59名）

参観教員：8名

(2) 検討会

日 時：平成26年6月6日（金）5校時終了後引き続き実施

場 所：本学2号館 2102 図工室1

2、「保育職基礎演習Ⅰ」の授業計画（本学シラバスより）

【授業の紹介】

「保育者（先生）になること」を単なる「あこがれ」から確かな「目標」へと切り替え

入学した1年次の皆さんが「保育者（先生）として必ず求められるもの」について考え・体得する。これが保育職基礎演習です。そのために本科目は卒業必修に位置づけられます。子どもたちや保護者から信頼される保育者になるためには、確かに保育の専門的知識・技能は大切です。しかし、それだけにとどまりません。保育に対する情熱や真摯な態度を目に見える形で表明できる意志も皆さんに求められるのです。こうした情熱や態度についても、みなさんと徹底的に向き合っていきます。

こうした基礎はとりわけ実習科目群と連動し、「保育・教職実践演習」につながっていきます。

【到達目標】

「保育学科のめざす保育者像」に基づき、以下を到達目標として設定します

- ・子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観を高める
- ・自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性を育む
- ・高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力を身につける
- ・多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力を養う

【授業計画】

新学期が始まって間もない時期に保育現場を見学することで、保育者になるための意識を目覚めさせる計画を入れているが、先方の都合もあり本学履修手引きに掲載したシラバスとは多少順序が移動している。また、卒業生との交流会は日曜日に実施といった多少の変動もある。

実際の流れは以下の通り。

- 第1回 保育者になるためのラーニング・ティップスを受講する
- 第2回 保育現場を学ぶための「ボランティア」の意義を理解する
- 第3回 保育者を目指す自分を振り返り、これからの課題を立てる
- 第4回 信頼される保育者に必須の倫理的行為・態度について理解する
- 第5回 子どもの成長を脅かす音環境の問題に関心を向ける
- 第6回 保育技術を磨く「ほいくのくに」（大学祭）の意義を理解し、計画を立てる
- 第7回 保育者をめざす実習生として保育所を訪問し、見学課題に取り組む
- 第8回 研究室単位で「ほいくのくに」の具体的計画を練る
- 第9回 保育や子どもに関する「確かな情報」を得るために図書館利用検索の実践
- 第10回* 児童文学・絵本の世界を体験する（本時）

- 第11回 保育現場で活躍する卒業生との交流会に参加する
- 第12回 様々な表現活動を通して子どもの成長を支える保育を理解する
- 第13回 夏の保育を意識した野外での活動の意義と留意点を理解する
- 第14回 夏休みに取り組む保育ボランティアの計画を立てる
- 第15回 保育者を目指した今期を振り返り、次期を展望する（ポートフォリオ）

【授業時間外の学習】

- ① 授業において学んだ「保育者を目指す保育学生として、ふさわしい服装・言葉づかい・立ち居振る舞い」を実践する。目に見える形で表明し続ける。
- ② 保育所や幼稚園等での保育補助ボランティアを積極的に行い、保育・保育者・子ども・保護者等の理解を深める。
- ③ 後期「保育職基礎演習Ⅱ」において運営する「ほいくのくに」の準備を進めておく。

【成績の評価】

詳細は第1回目の授業時に説明（授業の性質上、出席、立ち居振る舞い、学習ノート等課題の記入や提出、まとめの課題を総合的に判断し評価する。保育現場へ赴く時、授業で提示されたマナーに背いた場合、先方の園や子ども・保護者に迷惑をかけるので受講禁止の措置を取る。

【使用テキスト】

高松短期大学保育学科「先生を目指す人のためのポートフォリオ」

【参考文献】 各授業毎に提示

3、本時の概要

（1）授業題目 第10回 児童文学・絵本の世界に目を向ける（絵本の読み聞かせ体験）

受講生全員が自分の選んできた絵本の読み聞かせを実演する。このことは、絵本を選ぶ、読み聞かせをして聞いてもらう、他人が読むのを聞く、いろいろな絵本にふれる等、わずかな時間の中で多くのことを経験する中で効率よく目標達成することを狙っている。

（2）本時の指導目標

絵本の読み聞かせやいろいろな絵本にふれることにより、絵本に対する興味を深化

させ、多彩な保育活動を創出する基礎技能を自ら高めようとする意欲を育てる。

(3) 授業内容

授業の流れは、本時指導案（資料に掲載）の通り。

大きく分けると2つの要素がある。1つは「全員が読み聞かせの体験をする」ということともう1つは、そのために必要な「絵本についての知識や読み聞かせ方」についての認識を深めることである。絵本については他の教員の授業「実習指導」や「子ども文化」でも取り上げているので重複しないよう連携を取りながら進めた。

まず、本時、各自が読み聞かせをしようと持参した絵本についてお互いに紹介（今から読む本を選んだ意図や伝えたい思い等）し合ってから教室の移動をした。（他のグループの声が邪魔にならない程度の空間が必要なため）このことのために環境設定と無駄な時間をできるだけ少なくしたいので読み聞かせ体験の計画準備の段階で心を砕いた。少人数グループで実施しないと全員の体験が困難であるため、1教室に4研究室4コーナーに配置して、各研究室担当教員の協力を仰いだ。（前以て依頼しておいた）今回の授業は、最初全員で、途中教室の移動、そしてまた元に戻るという経過をたどるため、できるだけロスタイムを少なくするよう近くの教室のみを使用し、学生の動きも敏捷に行動するよう促した。（保育者になれば、子どもとの行動はゆっくり穏やかに、自分だけが動くときは無駄な時間を少なくすることが大切であるから）日ごろからこの点の指導をしているが、最近の学生は何をしてもものんびり、ゆっくりしているので、ことあるごとに注意を喚起している。保育の仕事は、子どもに対しても常に生活指導を頭において指導援助が必要である。そのために保育者自身、体が自然に動けるよう習慣づけなければならないと考えているからあえて教室移動も基礎的能力育成の一つであるとの観点から、授業中の教室移動を実行した。読み聞かせグループは、研究室を二分したので4、5人のグループで行い、研究室担当教員はその進行状況の援助をお願いした。（持参した絵本の一覧は別紙資料に添付）

読み聞かせ体験終了後の振り返りは全員でとも考えたが、出てくる意見も推測できたので話し合いをせず1人1人の心に自分で問いかけ感じ、受け止めてほしいと思ったから。グループ内での感想は、コメント用紙に書き込みお互いに交換し、学習シートに貼付。これを見ると、仲間の良い点を見つけ上手に褒めているので感心した。一部心配りをした方が良いとの指摘も少しは見られた。それよりも、自分の足りないと

ころは理解できると判断したので、紀伊國屋書店発行のVTR「読んであげよう楽しい絵本の世界」の一部を視聴することにした。結果は、学習シートにそのことがきちんと書かれており、理解できていると判断した。(取り上げた絵本も比較的よく知られている、・おおきなかぶ、・三びきのやぎのがらがらどん、・はらぺこあおむし、・かいじゅうたちのいるところ、・うさぎさんのくれたバレエシューズ等、代表的な話の読み聞かせ方の実践例のエキス部分だけであるから)

次に読み聞かせでは取り上げないようないろいろな絵本を時間の許す限り紹介した。(その内容は、資料に記載)これは、絵本への興味関心を刺激して絵本を選ぶときにいろいろな観点から、選ぼうとする態度を育てたいと思ったからである。また、絵本の歴史的背景から今日の絵本が存在していることに気付いてもらいたいし、さらには自分自身の教養の幅を広げてみようという意欲的な学生を育てたいと欲張っているいろいろな絵本を紹介した。また、図書館員の協力も得て、教室に多種多様な絵本を展示しておいた。

(4) 指導上の留意点・工夫

*この授業を始めるに当たって学生の絵本への興味関心や認知度を理解した上で展開したいと思い、自分の他の授業終了後に別紙のような絵本の認知度調査をしておき、本時絵本を持参してもらった。

少しは読み込んでおいてくれることを期待したが指導が不十分だった。

*少人数グループ単位での読み聞かせ体験がスムーズにできるようグループ配置や教室移動に工夫した。(座席指定、色分けなどで素早い移動ができるようにした。)

*いろいろな絵本を見せて紹介するには時間的に無理や工夫を必要ということは十分承知していたが、安易な選び方でなく、自分でよく吟味して選ぶ習慣をつけてほしかったので、あえて実行してよかった。学生の声の中に、もっと多くの紹介とみる時間がほしかったといわれたが、それは図書館利用で可能なことを説明しておいた。

*読み聞かせ教室の配置図の横に、雰囲気づくりの一助にと、東京子ども図書館理事長松岡享子さん他の読み聞かせ風景の写真を貼ってみたが、気付かない人のほうが多かったのは残念である。

*教室の前列に、いろいろな絵本(歴史的なものから新しいものまで、珍しいもの、人気のある絵本等多くのものを図書館の方の協力を得て展示しておいた。十分時間が取

れなくて残念だったが興味のある学生は手に取って見ていた。今後の学びへの動機づけにはなったようである。

4、学生の状況

この授業を始める前に、別の授業終了時に、絵本についての認識がどれくらいあるのか知っておきたいと思い、*「図書館ランキング」ベスト100（絵本）により絵本の認知度調査をした。

集計結果は別表資料の通り。（この時、絵本の題名だけではわからないものもあり、絵本の表紙のカラー写真一覧表を提示して、不明なものは確認するように注意して調査した）

*「図書館ランキング」とは“子育てナビ”が全国の都道府県立図書館54館に依頼して推薦絵本リストの資料請求したところ44館から返信があり、さらに、東京子ども図書館の「私たちの選んだ子どもの本」などを集計し、複数回推薦されていた絵本を集めた結果の集計したものが「図書館ランキング」です。

この調査結果（別表）をみると、入学して2か月未満の学生であるためかもしれないが、58人の調査で、50人以上、すなわちほとんどの人が知っているという絵本は、100冊中6冊しかない。（三びきのこぶた、ももたろう、おおきなかぶ、ぐりとぐら、はらぺこあおむし、がんばりさんのふなあそび*←これは他の授業で紹介があった）であった。これらの現状を踏まえて絵本にふれる機会を多く持つ必要があると痛感した。保育者になりたいとって入学してきたが、昔話もあまり語れない、わらべ歌も知らない、ピアノも弾けない、といった現状がある。これらだけをマスターしておけばよいというものではないが、子どもとともにある生活を始めるためにはこれらが必要になってくることは感じているようである。やるべきことの多さに驚いている学生も少なくない。絵本ならすぐにでも仲良くなれる文化財であることに気づき、まず自分自身が楽しむことから始めてみようと思う気持ちが育ってくれたらと願っている現状である。

5、授業に対する参観者の評価

（1）授業を積極的に評価できる点

①教育内容

○入学して2ヶ月、絵本の必要性に気付いてはきたものの、まだその価値について深く

考えたことのない学生にとって大きなきっかけを作っていただいたと思います。(音楽の授業をしていても学生が子どもの歌を知らないことに驚かされます)先生の働きかけで、学生自身が「知らない・レパトリーがあまりにも貧弱である」ことに危機感を持って行動してくれることを祈るばかりです。

また、絵本以外のことになりますが、先生が常に言葉かけをしていらっしゃる効果も大いに期待できることだと勉強させていただきました。周囲の状況を読んで、時間内に速やかに行動することの必要性も学生が徐々に体感できるようになってきたのではないのでしょうか。

- 保育者を目指す学生にとって欠かすことができない「絵本」と「読み聞かせ」について、とても刺激になる授業だったように思います。例えば、事前に調査された絵本100冊の認知度の結果や絵本の絵やストーリーの時代的变化、読み聞かせテクニック等、「面白い(ヤバイ)!!」と感じて「もっと知りたい!!」と思えるような内容がたくさん盛り込まれていました。

また、グループで読み聞かせを実践し、コメントを交換できるようにしたことも学生にとっての良い経験になったと思います。

- 様々な絵本や映像を駆使されていることが印象的でした。

絵本の読み方も口で指導しただけでは伝わらず、視覚的に違いがはっきりすると学生もよく分かると思います。様々な教材を保有されている点も非常に勉強になりました。

絵本の読み聞かせ体験をすることにより絵本の世界に興味を深め、保育活動の基礎技能を高めるための最適な時期であった。本時の内容が保育職につながり、学生が自分のこととしてとらえられるような指導がなされていた。

- 入学して2ヶ月であり、保育士を目指している学生であるが積極的に絵本に触れようとする学生は少なく、絵本の選択理由もまだ曖昧な時期であるようである。課題として取り組み興味を持たせるために図書館の利用と情報検索の演習授業直後であったことも良かったと思う。

絵本(児童文学)に焦点をあて、読み聞かせ合う活動を通して、学生が多様な絵本作品に触れる機会が設けられていた。また、現存する絵本内容の中には、歴史の下で(イデオロギー対立、不適切な表現の排除等)再構成されたものが少なくなく、過去の同一作品と読み比べることによって、政治的、教育思想的な思惑を垣間見ることが

できる示唆が示された。

②授業方法

- 読み聞かせ体験では、絵本を持ってこさせることから始まって4名という効率的なグループ分けや教室内の座席配置など、先生の目に見えない用意周到な準備のおかげで、スムーズに全員が体験できたことは良かったと思います。20分間は短すぎないかと危惧していましたが程よい切り替えができました。また、VTRの視聴も的確なタイミングだったので学生が真剣に見入っていたように思います。私は、メモを取ることよりも画面から目を離すことなくじっくり視聴した学生の気持ちも分かる気がしました。
- 予習（絵本探し・内容の確認）⇒実践（絵本の読み聞かせ）⇒読み聞かせを行う上での注意点（講義・映像）⇒反省 と学生にとって必要な内容が全て構成されていました。また、50人以上の学生に対して、実践の機会を持つことは難しいのですが、それも実施され、学生は実際に絵本を読む難しさを体感できたと思います。
- 学生が自ら選んだ絵本をグループの学生に紹介して読み聞かせを体験する方法がとられた。

3～4名の少数のグループで行ったがグループ活動を取り入れることにより、多様な気づきを得られる。

今後、対象を園児に想定して聞く側の人数を増やすことの相違点へも発展させることができるであろう。学生が触れることのないような古い絵本にも興味を持たせるように工夫された紹介がなされていた。読み聞かせのVTRを視聴することにより自分の振り返りをさせていたのは効果的であった。

他を思いやる気持ち、仕事を手際よく迅速に処理する、子どものことに気づくことなどが大切な保育者の資質であることにまでふれ、読み聞かせの授業の中で多くの学ぶべきことを伝えていた。

- 絵本の読み方のポイントがビデオ視覚教材によって提示され、多様な感覚が刺激を受ける機会があった。また、絵本教材を多様に用意し、学生が様々な絵本に触れる環境が整えられていた。

③その他

- 研究授業までの準備に敬服し、少なからずですがお手伝いできたことを嬉しく思いました。また、先生所有の絵本の貴重さにも惹かれ、転勤族で引っ越すたびに当時の絵

本やおもちゃを譲ってきた我が家のことが今更ながらもったいないことしたなあ
と、特にキンダーブックは姉のために相当数揃えていたそうで……母から聞いて残念
でなりませんでした。もしよろしければ、私も含め、学生に当時や子どもを取り巻く
環境の変遷を知る貴重な絵本や資料を今後も機会あるごとに見せていただけたらとて
も嬉しいです。

- 保育士が子どもに読み聞かせをしたり、紹介する絵本がその子どもの人生に大きな影
響を与えるを感じとってほしいと願いながらであるが、真剣なまなざしで取り組
んでいる学生の様子を見て安心した。

(2) 授業の改善にかかわる点

①教育内容

- 児童文化財への導入として目論まれた本講は、内容「絵本作品の奥深さ」と方法「絵
本の読み聞かせの効果的な仕方」の二つの目的から構成されていたように感じられ
る。確かに、内容と方法に関するそれぞれのポイントは示されたものの、学生個々の
実践に対する改善の方途が示されなかったため、「今後自分は何を改善すべきか」ま
で学生は深めることができたかどうか。だが、教員が学生一人ひとりの読み聞かせに
対してコメントするだけの時間はない。例えば、「読み聞かせの観点別評価」といっ
た指標を用いて学生相互に確認し合う作業などが考えられるかもしれない。

①教育内容と②授業方法

- ・学生にもっとメモを取ってほしい（特に読み聞かせテクニクのVTR時）。
- ・VTR後の学生の読み聞かせを見てみたい（また後日研活でやってみようかと思っ
てます）。
- ・井上先生の読み聞かせを聞いてみたい（個人的希望です）。

②授業方法

- 保育職基礎演習運営の上で、保育学科全体で考えることだと思いますが、毎回テーマ
が異なります。今日のテーマが何か分からず学生は授業に参加しているかもしれませ
んの、授業の内容と目標をどこかで学生が把握できれば、より授業参加への取り組
み・姿勢が変わるのではないかと思います。

③その他

- 改善にかかわる点ではありませんが気付いたことを少し書きます。

VTR視聴後の時間が短かったので、先生があんなにたくさんの絵本を運んで準備して下さったものにゆっくり触れることができなかつたことが残念でした。来年は2週連続で授業して下さるといいのにと感じたのは私だけではないと思います。なにか「もったいない……」気がします。

時間の制約があるので今回は無理ですが、機会があれば多様な絵本それぞれの価値を（作者の思い・工夫されているところなども含めて）グループで1冊選択して研究・発表させ、先生のご助言をいただくというのもいいかなと思いました。（研究室活動しかチャンスがないかもしれませんが）

- ・良い／年齢に合った絵本の選び方というのがあれば教えてほしい。
- ・絵本のもつ力？（子どもにとって絵本がどういう存在になり得て、保育に必要なのか）を井上先生のことばで聞いてみたい（これもまた個人的希望です）。
- ・絵本が身近になる（ある）生活にするためにコツを知りたい。

（3）授業全体の感想

- 無理をお願いしたにもかかわらずお引き受けいただきありがとうございました。準備その他本当にていねいになさるので、過大なご負担をおかけしてしまって申し訳ございませんでした。でも、私たち一同、やはり先生の授業から学ばせていただくことが多く、今回先生の研究授業を参観できてよかったという思いでいっぱいです。先生の授業は、特に「研究授業」でなくてもこのレベルがいつも維持されているので楽しみにしています。これからもお体に気をつけて、よろしく願い申し上げます。お疲れ様でした。
- 井上先生、今回も大変勉強になる授業をありがとうございました。いつも先生からいただくこのパワーは何だろうと思いつつ、日々感謝しております。今回の授業でも「そうだ、研活でもやってみよう」と思いつくことがポツポツと、本当に不思議だなあとします。学生のなかにも既に同じパワーを得た者がいるかもしれません、いや、本当はみんな得ているのにその使い道が分からないのかもしれません。もしそうならば、研活等でその使い道なんとかしていこうと思います。そして、本物の絵本通には程遠い私も来年こそは絵本100冊……は難しいかもしれませんが、近い冊数になれるよう絵本ノートを作っていこうと思います。本当にたくさんありがとうございました。これからもどうぞ学生と共にご指導のほどよろしくお願いいたします。

○豊富な教材の保有・準備と先生の細かい配慮に、自分自身を反省しました。学生は、初めて触れるものも多かったと思いますので、受けた印象は様々かもしれません。ただ、これからの実習、将来的には就職してから、今回の授業が生きるのではないかと思います。

本当にありがとうございました。

○持参した絵本を読み込んでいない学生はいたが全員が持参しており、授業に対する学生の熱意が感じられた。気負いのないベテランの先生の授業に魅力を感じました。ありがとうございました。

○資料等から、準備の段階において入念に丁寧に取り組まれている姿が十分に拝察されます。大変なご負担だったでしょうが、「きちんと普通に」当番をこなされ、敬服いたしました。謹んで御礼を申し上げます。

やや難しい内容が授業の中に含まれていましたが、従来問題視されてきた「伏せて寝る」「明らかなよそ見をする」ような授業への意欲が出せない学生は、みられなかったように思われます。こうした学生が、実習生として活躍してもらえれば、保育学科の社会的信用も高まると思われます。

まとめ—授業改善の課題—

*「読み聞かせ 実践後の自己評価」の結果（別表）を見ると、絵本を選び、始めるまでは自分なりにまずまず「できた」と感じている。しかし、読み聞かせそのものの、技術的な点ではまだまだもうひと頑張りが必要だと思っているようである。

*学習シートの「いろいろな絵本を見て」のところで、こんな記述があった。

「絵本は必ず何か伝えたいことがあり、子どもたちはそれを感じ取って成長していくのだと思った」「もっと沢山の本を読み、絵本が好きになり、子どもたちにも好きになってほしいと思った」「昔の本のテンポが良くて聞きやすいものがあり、子どもが喜ぶのも分かるなあと考えた」「知っている話も知らない話も図書館にあるもの全部読みたい」

絵本の読み聞かせ 実践後の自己評価

2014. 6. 6 実施

評価内容項目	評価段階	人数
1、選んだ本は適切であったか	5	16
	4	33
	3	10
	2	
	1	
2、話の意図が伝えられたか	5	11
	4	34
	3	14
	2	
	1	
3、表現の方法（声の大きさ、読み方）	5	6
	4	27
	3	22
	2	4
	1	
4、表現技術（本の持ち方、めくり方、速度）	5	4
	4	15
	3	32
	2	7
	1	1
5、聞いている人への配慮（見えやすい他）	5	8
	4	19
	3	29
	2	3
	1	

*学習シートに記載されたものの集計である

「今頃の昔話は何でもハッピーエンドに変えているが、原話はそうでないものもある。子どもには本物をしっかり読んであげたい」・・・

読み比べ効果はそれなりにとらえられていて、自分で考え、子どもに聞かせてみてまた共に感じとり、積極的に多くのものにふれてみようとする意気込みを大切にしてほしいものだ。

*いつものことだが、気付かせたい、感じてもらいたい、自分からやってみようと思う気持ちを育てたいと欲張りが先行しすぎたような気もする。しかし、自ら取り組んでみようと思うことは効率よく吸収されるが、単位が必要だからというだけでは真の学びとして身に付かないと信じているので、何とかして心の財産を増やしてほしいと声をかけ続けている。ある程度の動機づけはできたと認識しているので、実際に自ら取り組もうとする自発学習を促す手だてが課題である。

*とにかく1人1冊の読み聞かせを全員に体験してもらい自分の課題を見つけてほしいと願って展開した。結果自らやりたい、やらねば迄は到達したが、何からどのようにと実践に移すきっかけが今一つ。最低の基礎基本をしっかり押さえる教育の徹底ができなかったことが自分の課題であると今回も認識した。しかし、私の時間はこの1コマ。後は学生に期待するのみ。

*いろいろな絵本にふれた経験から、最近は図書館を利用する人やボランティアを通して自分の中に内包するものを増やしたいという意欲的な学生の様子が伺えるようになった。なかには、毎月1冊 お気に入りの絵本を買いそろえ、今から保育財産を増やすのだと張り切って報告に来た学生も何人かいる。こうした学生が増えてくることを熱望している。

*心から子どもたちに素敵な絵本、いいお話を届けたいと思う気持ちの優しい保育者に育ってくれるためにはどんな環境、どんな働きかけが必要なかを問い続けながら紹介してきた。他の授業やこれから始まる実習の中で見たこと、聞いたことを思い出し、自分から保育活動を創出する基礎技能に磨きをかけてくれることを期待している。

謝辞 図書館ランキングの集計に力を貸してくださった中村多見先生、本の貸し出し選別にお世話になった図書館の方々、遅くまで研究授業並びに検討会にお付き合いくださり、貴重なご意見をお聞かせ下さった保育学科の先生方皆様に心からお礼を申し上げます。

< 資 料 >

①保育職基礎演習Ⅰ－⑩ 学習シート

②本時の指導案

③配布資料 ★（研究授業資料、参考文献を含む）

★（図書館ランキングベスト100（絵本）

④私の選んだ絵本（学生が持参して読み聞かせを实践したもの）－①、－②

保育職基礎演習 I —⑩ 学習シート

学籍番号 () 氏名 ()
所属研究室 () 評価

◆絵本の読み聞かせをしてみよう！

< 1 > 私の選んだ絵本

絵本の題名『 』	
作 者 (文)	
(絵)	
発行所	発行年
この絵本を選んだ理由 (好きなどころ)	
この絵本で伝えたいこと、感じてほしいこと	

< 2 > 読み聞かせの対象

・対象年齢 (想定年齢 歳) ・対象人数 (人位) ・時期 (いつ頃)

〔 事項について、特に思い入れ等説明したいことがあれば下記に記入 〕

< 3 > 自分以外のグループの人の読み聞かせ絵本

氏 名	絵本の題名
1、	
2、	
3、	
4、	
5、	

< 4 > 実践後の自己評価

評価内容項目	5	4	3	2	1
1、選んだ本は適切であったか					
2、話の意図が伝えられたか					
3、表現方法（声の大きさ、読み方）					
4、表現技術（本の持ち方、めくり方、速度）					
5、聞いている人への配慮（見えやすい他）					

6、よかった・良くできたと思う点

7、改善点・感想（何をどのようにすればさらに良い読み聞かせができたか考える）

< 5 > VTR「読んであげよう楽しい絵本の世界」（一部のみ）を視聴して

< 6 > いろいろな絵本を見て

< 7 > グループの人からのコメント（以下に貼付）

ここに貼付（他の人へのコメントは、個々人に渡す）

児童文学・絵本の世界に目を向ける（絵本の読み聞かせ体験）

担当 井上 範子

■本 時 絵本の読み聞かせ体験やいろいろな絵本にふれることにより、絵本に対する興味を深化させ、多彩な保育活動を創出する基礎技能を自ら高めようとする意欲を育てる。

最近は何の研究室でも模擬保育や児童文化財にふれる体験をしているようである。さらに「子ども文化」の時間ではおそらく本格的に多方面からの学びが展開されているものと推察される。そんな中で割り当てとは言えあえてここで私がやることではないようにも思っていた。しかし、他の授業終了時にとりあえず「絵本に対する認識の度合い」を尋ねた時、あまりにも「知らない」と答えたものが多く見られたので驚いた。そこで重複する面もあるかと思われるが、回数を重ねて深化させるのも良いかと認識し、保育者になれば避けて通れない絵本を扱うことにした。

絵本は子どもの心を育て、子どもの成長にとってはかけがえのないものだけに、保育者として自信を持って子どもたちに向き合ってほしいと願っている。

■指導計画

時間	活動内容	指導上の留意点
～16:20	・絵本持参で自分の座席を確認して着席	・絵本の持参を確認する。 ・後の活動のこともあり研究室単位の座席指定とする。
16:20	○本時の流れの概要説明を聞く	○授業の途中で教室の移動があり、終わると戻るので、行動は敏捷にするよう伝えておく。
16:25	○学習シート<1><2>の記入	○学習シート記入説明。読み聞かせをする本についての認識をしっかりと持たせておきたい。
16:35	○教室移動、場の設定をする。	○場の設定は、他のグループと余り近接しすぎないようにする。
16:40	○持参した絵本を紹介してから「読み聞かせ体験」をする（1人約5.6分）	○その絵本を選んだ理由等聞く人にしっかりと伝えてから読み聞かせをする。
17:00	○終了後、場の原状復帰、教室移動後学習シート<3><4>完成。 ・個人別のコメントは切り離して交換し、学習シートに貼付	○同室の進捗状況を見て移動のタイミングに注意。未終了の場合はコメント記入等により雑音を立てないようにお互いに配慮する。 ・自己評価の記入は今後どのような努力が必要なのかしっかりと振り返りの機会としたい。
17:10	○読み聞かせのVTRを視聴する	○代表的な話のエキスだけを視聴して自分の話しぶりの指標にしてほしい。
17:30	○いろいろな絵本を見る。	○今回のまとめを兼ねて、時間の許す範囲内でいろいろな絵本を紹介し、幅広い絵本に興味を持たせたい。そして自ら絵本についての知識財産を増やすくふうをし、機会をつくっては読み聞かせ体験をしてみようと言う気持ちを喚起したい。
17:50	○学習シート記入漏れ点検後提出。	

《研究授業 資料》

【 指導案の*1、*2 】

*1 VTR について

『読んであげよう楽しい絵本の世界』（幼保・学校篇） 紀伊國屋書店 発行
監修 笠原良郎、 企画 日本児童図書出版協会、 製作 株式会社 ポルケ

*2 いろいろな絵本 について

<古い絵本の紹介>

- ・明治22年発行『おほかみ』（グリム 原作、小林永濯 絵、上田萬年 訳）昭和53の複製版
- ・日本一ノ画嘶『カチカチヤマ』他 巖谷小波 文、 中西屋書店 発行 1911～15年
- ・観察絵本『キンダーブック 第一篇（創刊号）お米の巻』他 フレーベル館 発行 1927年、
- ・新・講談社の絵本『桃太郎』（1937年の複製版、2001年発行）

<同じ話の読み比べ>（絵や場面の扱い方、言葉の表現）

- ・『桃太郎』（講談社の絵本・現代の絵本（アニメむかしむかし絵本・日本昔ばなしアニメ絵本、）
- ・『おおかみと七ひきのこやぎ』（グリム童話、フェリス・ホフマン え/せたていじやく、福音館書店と世界名作アニメ絵本、永岡書店発行のもの）
- ・『三びきのこぶた』（イギリスの昔話、瀬田貞二 やく・山田三郎 え、福音館書店発行と世界名作アニメ絵本、永岡書店発行のものとの比較）

【 絵本選びの参考に 】

- ・絵本ランキング（別紙配布資料、図書館員の選んだランキング）
- ・寿命の長い本（長年にわたって読み継がれた本、25歳を過ぎた絵本、ミリオンセラー）
- ・保育から生まれた本（例、赤羽末吉：さく・え『おおきなおおきなおいも』）
- ・平凡社『別冊太陽 絵本』（この別冊太陽には絵本を特集していることが多い）
- ・東京子ども図書館『絵本の庭へ』 児童図書館基本蔵書目録1、2012年

◆参考文献◆

- 瀬田貞二著 『絵本論』 福音館書店 1985年
瀬田貞二著 『幼い子の文学』 中公新書 1980年
鳥越 信編 『絵本の歴史を作った20人』 創元社 1998年
鳥越 信編 『【カラー版】小さな絵本美術館』 ミネルヴァ書房、2005年
松岡享子著 『えほんのせかいこどものせかい』 日本エディタースクール出版部 1987年
松居 直著 『松居直のすすめる50の絵本』 大人のための絵本入門 教文館 2008年
松居 直著 『わたしの絵本論 0歳からの絵本』 国土社 1981年
古橋和夫著 『子どもへの絵本の読みかたり』 法文書林 1999年
生田美秋・石井光恵・藤本朝巳編著 『絵本入門』 ミネルヴァ書房 2013年

保育職基礎演習Ⅰ 研究授業 (2014,6,6 実施)「絵本の読み聞かせをしてみよう！」

【 私の選んだ絵本 】 (学生各自1冊持参し、読み聞かせをしたもの) -①

読み聞かせは研究室単位のグループで実施したので、絵本の一覧も研究室ごとに提示

<保育第1研究室>

- 『ぐりとぐら』 中川季枝子 文、大村百合子 絵、福音館書店
- 『かばくんとおとうさん』 ひるかわさえこ 文と絵、あかね書房
- 『いやだ いやだ』 せなけいこ 文と絵、福音館書店
- 『こんとあき』 林明子 文と絵、福音館書店
- 『バムとケロのそらのたび』 島田ゆか 文と絵、文溪堂
- 『バムとケロのにちようび』 島田ゆか 文と絵、文溪堂

<保育第2研究室>

- 『おこだでませんように』 くすのきしげのり 文、石井聖岳 絵、小学館
- 『だるまちゃんとかみなりちゃん』 加古里子 文と絵、福音館書店
- 『ずーっと ずっとだいすきだよ』 ハンス ウイルヘルム 文と絵、評論社
- 『三びきのこぶた』 イギリスの昔話 晴海耕作 訳、ポールガルトン絵、童話館
- 『こんとあき』 林明子 文と絵、福音館書店
- 『百年たってわらった木』 中野美咲 文、おほまこと 絵、くもん出版
- 『おやすみくまちゃん』 シャーリー・パレント文、デイヴィッド・ウォーカー絵、岩崎書店

<教育学研究室>

- 『11びきのねこ』 馬場のぼる 文と絵、こぐま社
- 『月のみはりばん』 とりごえまり 文と絵、偕成社
- 『お星さま』 谷本美智子 文と絵、教育画劇
- 『かさ』 松野正子 文、原田治絵、福音館書店
- 『まどをトントントン』 いわもとかずひろ 文、なかのひろたか 絵、福音館書店
- 『ちいさい ちいさい ぞうのゆめ・・・です』 ルース・ボーンスタイン 文と絵、ほるぷ出版
- 『それいけ！ ねずみくんのチョコッキ』 なかえよしお 文、上野紀子 ひき絵、ポプラ社
- 『いたずらぎつね』 イソップ物語、星光一絵、永岡書店
- 『ねずみのさかなつり』 山下明生 文、いわむらかずお 絵、ひさかたチャイルド

<心理学研究室>

- 『14ひきのひっこし』 いわむらかずお 文と絵、童心社
- 『こんなにたべるよこぶたちゃん』 きたやまようこ 文と絵、偕成社
- 『おやおや おやさ』 石津ちひろ 文、山村浩二 絵、福音館書店
- 『ちっちゃな ともだち』 ふくだすぐる 文と絵、Benesse
- 『るんるんバス』 左近蘭子 文、島田コージ 絵、世界文化社
- 『バムとケロのおかいもの』 島田ゆか 文と絵、文溪堂
- 『かにこちゃん』 きしだえりこ 文、ほりうちせいichi 絵、くもん出版

【 私の選んだ絵本 】 -②

<音楽第1研究室>

- 『くれよんのくろくん』 なかやみわ 文と絵、童心社
『どうぞのいす』 香山美子 文、柿本幸造 絵、ひさかたチャイルド
『はじめてのおつかい』 筒井頼子 文、林明子 絵、福音館書店
『ぐりとぐらのえんそく』 なかがわりえこ 文、やまわきゆりこ 絵、福音館書店
『なにをたべてきたの?』 岸田衿子 文、長野博一 絵、佼成出版社
『ぐるんぱのようちえん』 西内ミナミ 文、堀内誠一 絵、福音館書店
『ぐりとぐらのかいすいよく』 なかがわりえこ 文、やまわきゆりこ 絵、福音館書店
『くろくんとふしぎなともだち』 中尾美和 文と絵、童心社

<音楽第2研究室>

- 『きんぎょがにげた』 五味太郎 文と絵、福音館書店
『おさんぽ おさんぽ』 ひろのたかこ 文と絵、福音館書店
『ゆきのふるよる』 ニック・パトワース作、林真実訳、金の星社
『あしたもあそぼうね』 あまんきみこ 文、いもとようこ 絵、金の星社
『あしたうちにねこがくるの』 石津ちひろ 文、ささめやゆき 絵、講談社
『うさぎちゃんとおひさま』 あいはらひろゆき 文、あだちなみ 絵、教育画劇
『ぶんたのおふろだいすき』 舟崎端子 文、田沢梨枝子 絵、ブックローン出版
『いろいろたまご』 やまおかひかる 文と絵、くもん出版

<体育研究室>

- 『ちびくろさんぼ』 ヘレン・バンナーマン作、光吉夏弥 訳、フランク・トビマス絵、瑞雲舎
『おすわりくまちゃん』 シャーリー・パレント一文、デヴィット・ウォッカー絵、岩崎書店
『じいちゃんのよる』 きむらよしお 文と絵、福音館書店
『たいへんなひるね』 さとうわきこ 文と絵、福音館書店
『おおきいトンとちいさいポン』 いわむらかずお 文と絵、偕成社
『マドレーヌのクリスマス』 ルドウィッヒ・ペーメルアンス作、江國香織訳、BL出版株式会社
『はりねずみのはりこ』 なかやみわ 文と絵、福音館書店

<美術研究室>

- 『しろくまちゃんのほっとけーき』 わかやまけん 文と絵、こぐま社
『にじ』 新沢としひこ 文、あべ弘士 絵、精興社
『おにぎりがしま』 やぎたみこ 文と絵、ブロンズ新社
『ぐりとぐらのおおそうじ』 なかがわりえこ 文、やまわきゆりこ 絵、福音館書店
『11ぴきのねことへんなねこ』 馬場のぼる 文と絵、こぐま社
『くまさんおでかけ』 なかがわりえこ 文、なかがわそうや 絵、福音館書店
『ぐりとぐらのえんそく』 なかがわりえこ 文、やまわきゆりこ 絵、福音館書店

執筆者紹介

O.Baterdene	モンゴル国経済開発省投資政策局	主任
丸山 豊史	高松大学 経営学部	教授
山口 直木	高松大学 経営学部	准教授
岡本 丈彦	高松大学 経営学部	助教
澤田 文男	高松大学 発達科学部	准教授
津村 怜花	高松大学 経営学部	准教授
花城 清紀	高松大学 経営学部	助教
藤井明日香	高松大学 発達科学部	講師
岡 耕平	滋慶医療科学大学院大学	講師
川崎 紘宗	高松大学 経営学部	講師
竹内 由佳	高松大学 経営学部	助教
向居 暁	高松大学 発達科学部	准教授
森 享子	高松大学 経営学部	非常勤講師
井上 範子	高松短期大学	教授
小西 博子	高松短期大学	准教授
藤井 雄三	高松短期大学	講師
溝渕 利博	高松大学 発達科学部	准教授

研究紀要

第62・63合併号

平成27年2月25日 印刷

平成27年2月28日 発行

編集発行

高松大学

高松短期大学

〒761-0194 高松市春日町960番地

TEL (087) 841-3255

FAX (087) 844-4759

印刷

株式会社 美巧社

高松市多賀町1-8-10

TEL (087) 833-5811